

おいでん・さんそんSHOW

7月号
2018.07.01発行



足助 地域に学ぶ〜ジビエを通じたいのちの授業

山里ならではの高校教育



ジビエの知識を深める講義の様子。生徒からは質問が相次いだ。

6月9日(土)、新盛町の扶桑館で、県立足助高校による「地域に学ぶ〜ジビエを通じたいのちの授業〜」が開催されました。足助高校は、次年度に観光やサービス業への就職、商科大学への進学を目指す「観光ビジネス類型」を新設します。それに向け、特産品のジビエについて背景や加工の工程を知ること、「いのちの循環」を学び、地域や企業と連携した地域貢献を考える課外授業として行われたもので、山里の高校ならではの魅力的な授業となりました。10名

程の募集に対し、28名もの生徒が集まりました。**増える獣害と、その対策** ジビエとは、狩りで捕獲して食用にする野生動物を指すフランス語。近年、里山に人が入らなくなったことでイノシシやシカなどが増加し、田畑を荒らす被害が深刻化しています。また、捕獲後、食肉として利用される頭数が全体の1割程と少なく、大半が山中に埋却されています。それを、地域の特産品として消費を増やそうという動きが全国で広がっています。

豊田市の国際社会が解決すべき「持続可能な開発目標SDG S(エスディーズ)」の達成を率先して取り組む自治体「SDG S未来都市」に選定された。数ある地方自治体から選ばれた29自治体に入った背景には、おいでん・さんそんセンターの一見分かります。SDG S未来都市



センター長のミライのフツに
向かって!

SDG Sとは、環境汚染やエネルギー、格差など、このままでは地球が持たないことを世界の各国が認識し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会に向けて国際社会が2030年までに達成すべき17項目の目標を定めたもの。2015年に国連で採択された賢明な人類の英知と言える。これまでセンターは、山村の過疎や環境、教育、食と農など分

野を問わず様々な社会課題に向き合ってきた。それは、都市と山村を併せ持つ自治体だからこそ発想できる解決の糸口を見つけては、なく、あるものを磨き「つなぐ」こと、お金の量ではなく、持続可能な社会や幸せな暮らしを住民目線で評価しながら一歩ずつ進む迂遠な作業であり、これからも続けなければならない。SDG Sは、センターが手探

りて取組んできた社会課題とその評価を、実に明快にしてくれる「新しいものさし」であると思う。センターのすべての取組みが17項目の目標に分類整理できるのである。「SDG S未来都市」に選定されたと浮かれている場合ではない。これまで以上にセンターの責任が増したと受け止め、挑戦を続けていこうと思う。

イベント情報

セカンドスクール2018夏 フリー版

豊田市では子どもの農村体験をセカンドスクールという形で実施しています。農作業や自然の中での「ほんものの体験」を通して、共同作業や世代を超えて交流することで、生きる力を育み、地域社会についての理解が深まります。

パンフレット兼申込書は、当センターのホームページイベント情報に掲載しています。

- 企画① 山のこどもになる!3日間 ●日程 | 8月6日(月)~8日(水) ●募集人数:20名 ●参加費 | 17,000円(2泊6日、保険料込1日目の昼食はお弁当持参) ●対象 | 小学3~6年生 ●宿泊先 | 1日目:ホテル岡田屋 2日目:稲武地区の各農家 ●集合/解散 | 名鉄豊田市駅集合解散 送迎バスにて稲武へ ●内容 | 1日目:いなぶで虫とり王になろう! 2日目:いなぶの農家のこどもになる!(農家民泊) 3日目:この日もいなぶの農家のこどもだよ! ●応募先 | 申込書を封書で郵送。〒441-2515豊田市夏焼町ヤガ子471-1山里ちやふえ ●応募締切 | 7月9日(月)消印有効 ●問合せ | TEL:080-3111-8953(仁熊)または山里ちやふえ(0565-83-3003)

- 企画② 山つ子くらぶ ●日程 | ①8月6日(月)~8日(水)②8月12日(日)~14日(火) ●募集人数 | 各回とも20名ずつ ●参加費 | 18,000円(2泊7食保険料込み) ●対象 | 小学2~6年生 兄弟参加は中学生も ●場所 | 豊田市旭地区(豊田市旭八幡町堂山432-3つくラッセル(旧・築羽小)と周辺) ●集合/解散 | 豊田市旭地区旧・築羽小に「おいでんバス+送迎車」が「自家用車」で ●内容 | 野塾(のじゅく)です。1日目9:30頃集合 3日目15:00頃解散 ●応募先 | 申込書を封書で郵送。〒444-2407豊田市桑田和日面71-1山本薫久 ●応募締切 | 7月9日(月)消印有効 ●問合せ | TEL:090-5453-6411(山本)

- 企画③ あさひ山里ぼうけん遊び ●日程 | 8月7日(火)~9日(木) ●募集人数 | 12名 ●参加費 | 20,000円(2泊7食、保険料込) ●対象 | 小学4~6年生 ●宿泊先 | 農家民宿ちんちゃん亭 ●集合/解散 | 初日は11:00に現地集合 最終日は14:00に保護者の方に来ていただいて振り返りをします。(初日、最終日いずれも参加必須) ●内容 | 1日目:薪割り、手打ちうどん作りなど2日目:ぼうけん遊び場「ふくろうの森」など自由遊び 3日目:農業のお手伝い、雑草で天ぷらなど ●応募先 | 申込書を封書で郵送。〒444-2812豊田市押井町寺ノ入4農家民宿ちんちゃん亭 ●応募締切 | 7月6日(木)消印有効 ●問合せ | TEL:090-1280-0033(鈴木)

- 企画④ みんなでつくろう!ドミタウン~豊田高専のお兄さん・お姉さんたちと遊んで学ぼう! ●日程 | ①8月20日(月)~21日(火)②8月21日(火)~22日(水) ●募集人数 | 各16名(男女混合) ●参加費 | 8,000円(食費、入浴料、材料費等) ●対象 | 小学4~6年生 ●場所 | 豊田市旭地区(笹戸温泉周辺) ●集合/解散 | 豊田市笹戸町(おいでんバス・バス停「笹戸」付近)現地集合10:30現地解散13:30頃 ●内容 | 豊田高専「皆志寮(かいしりょう)」の日課、自然や地元とのふれあい ●応募先 | 申込書を封書で郵送。471-8525豊田市栄生町2-1豊田高専内ドミタウン実行委員会 ●応募締切 | 7月15日(日)消印有効 ●問合せ | TEL:0565-36-5828(豊田高専総務課総務企画係) Email:koukai@toyota-ct.ac.jp

その他の情報は、センターHPをチェック!

REPORT 

萩野・将来計画策定プロジェクトチーム 定住勉強会を開催

地域の未来について、住民が話し合い

6月8日(金)、足助地区萩野小学校区で、萩野・将来計画策定プロジェクトチーム主催の定住勉強会が開催され、20名を越える住民の皆さんが、センターからの情報提供をテーマに議論を交わしました。

講演のテーマは、「萩野学区の将来は?人口動態、児童数、高齢化率からみえる地域の未来」、4月1日現在、人口689人、小学校児童数28名の萩野学区は、2040年には、人口は300人を割り、高齢化率60%、児童数は10人を下回り小学校は確実に廃校という衝撃的な内容です。参加者からは、「この現実を皆に知ってもらわなければならない」、「移住者を受け入れるために地域をもっと良くしたい」、「地域の木工さんや水道屋

さんなどが空き家リフォームを手助けする仕組みを作っては」など前向きな発言が相次ぎました。

プロジェクトチームでは、7月に旭地区敷島自治区の定住対策、9月に恵那市串原地区の空き家対策の先進地視察で学びながら議論を重ね、12月には「将来計画」の公開討論会を計画しています。センターは、地域住民が主体となった取り組みにしっかり伴走してまいります。(鈴木辰吉)



REPORT 

小原地区岩下町で 集落活動応援隊

同地区での活動は6年目

山村部の小規模化・高齢化が進んだ集落では、人手不足で集落活動(草刈りやお祭などの共同作業)が困難になっています。

おいでん・さんそんセンターは、山村部でボランティア活動を行う「集落活動応援隊」を組織し、都市住民と山村地域の人々との交流を促進しています。

6月16日(金)、小原地区岩下町で、集落活動応援隊による草刈作業を行いました。岩下町での活動は6年目に入っています。

集落の方々と応援隊の皆さんはすっかり顔なじみ。休憩中は、昔話や獣害被害の話で盛り上がっていました。(坂部友隆)



REPORT 

滝脇学区「建築許可 基準18号」勉強会

制度の柔軟な運用を求める声、相次ぐ

6月9日(土)、松平地区林添町区民会館で、「中山間地域等における建築行為等の許可基準(18号)勉強会」が行われ、40名余の住民の皆さんが参加しました。

滝脇小学校区では、5月27日にも滝脇町自治区でこの勉強会が開催され、定住促進を学区をあげて取り組む機運が高まっています。住民の皆さんからは、「山間の急峻な地形で、制度があっても実際には建築できる土地はほとんどない。」など制度の柔軟な運用の意見や要望が相次ぎました。

今後は、空き家対策も含めた移住定住への取組が期待されます。(鈴木辰吉)



REPORT 

明和「将来ビジョン」 公開討論会

足助地区明和自治区と大多賀自治区主催

5月27日(日)、足助地区明和小学校区で、地域の「将来ビジョン」公開討論会が開催され、70名余の住民の皆さんが参加しました。明和小学校区は、4月1日現在、人口594人、高齢化率45%、小学校児童数24人(複式)の学区で集落や小学校の存続が危ぶまれています。

おいでん・さんそんセンターは、会の冒頭、「先進地域の事例に学ぶ」ミニ講演を行いました。その後、討論会が行われ、3年で4世帯の移住者を受け入れることや住民が安心して暮らせる環境づくりなどが方針として掲げられました。(鈴木辰吉)



→鹿角ペンダントを作り、満足そうな生徒

猟師でありジビエカフェエMUIのオーナーでもある清水潤子さんからは、「カラスも美味しいですよ。でも、アライグマが一番ですね。」と驚きの発言

「(株)山恵の鈴木良秋さんは、獣肉加工施設を開業した経緯について、「適切に加工すれば価値ある山の恵み。できるだけみんなに美味しく食べてもらいたい」という想いで始めました。」と話しました。

生徒から「獲物を仕留めた時はどういう気持ちですか」と質問が出ると、猟友会の安藤正秀さんは、「初めて仕留めたときは夜うなされ、一週間ぐらい変な感じが残っていました。早く生熊が落ちてくれるといいと思っています。」と語りました。

後半は、ジビエの流通や活用を知る授業として、(株)山恵による猪肉の解体体験、NPO法人しし森社中による鹿角ペンダントの製作体験が行われました。実際にジビエの解体を手ほどきしていただくことで、生徒たちは、季節による肉の特性、食肉に加工するまでの衛生管理や苦勞を学んでいました。

発表会では、司会進行を生徒が授業の一環として務め、(株)ワイズの山本庸司社長が商品を紹介。地元自治会長など関係者60名ほどに試食が振舞われ、「肉の食感がしっかりしている。コクがあつて食べやすく、美味しい」と大好評でした。

参加した新盛町在住で同校3年生の安藤千誠さん(18)は、「今回の授業の募集をみて自分の地元だということに驚きました。ジビエを知りたいきっかけになり、地元への愛着が深まりました。小さいときに祖父母が作ってくれた猪肉の燻製がやみつきになるぐらい美味しかったんで見えたこと

生徒にとってこの一日は、「いのちの循環を通して」の「循環」を通して、世代のつながりを学ぶ機会にもなったのではないのでしょうか。そして、足助高校が山里の立地を生かしながら魅力的な高校になるよう期待しています。(坂部友隆)

1. 新発売の「とよた里山猪肉和風カレー」後ろに見えているキャラクターを、足助高校の生徒が考案した。
2. カレーを試食する生徒たち
3. (株)山恵のご厚意で、生徒たちに特性の猪丼がふるまわれた。
4. 生徒が解体をした肉は、BBQで食された。

